

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 圓谷舞雪 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

震災当時、私は小学三年生であまり震災の  
 恐怖などを知らない年齢でした。普段、弱い  
 地震が来ても、どうせすぐ終わるだろうと  
 いつも思っていました。3月11日、東日本  
 大震災当日も、始めの揺れが来た時は、「ま  
 た地震か」と思っていた記憶があります。  
 当時私は、教室で帰りの会をしている際中  
 でした。大きな揺れが来て校庭へ避難しました。  
 冷静にその場に応じた判断をし、そこまで導  
 いてくれた先生方には、感謝の気持ちでいっ  
 ぱいです。

今でも、震災の影響で、放射線が多く入れ  
 ない地域などたくさんあることと思います。  
 津波で、自分の家族が大切な人を失った人、  
 辛い思いを乗り越えてきた人、様々な経験  
 をした人がいるはずです。だからこれから、  
 福島県民、そしてそれだけでなく、他県の人  
 々で協力し、復興に向けて努力していきま  
 いたいと思います。福島に、明るい未来が  
 うまれることを願います。

氏名 角田奈々香 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中

ご飯の炊けるにおいはなんて幸せなおい  
 なのでしょう。家族全員が囲む食卓はなんて  
 素晴らしいのでしょうか。みんながそろって、  
 食事がいただけることは、決して当たり前  
 のことではないのだ。小学3年生なりに、きん  
 な言葉でほかほかの白米と噛みしめ、刻み込  
 みました。テレビに映される惨すぎる津波の  
 映像、屋根がぶっ飛ぶ原子力発電所、外を漂  
 う目に見えない悪魔、それが私の体を内から  
 破壊していく……。様々な恐怖と不安が頭を  
 よぎりました。しかし、食料不足のせいで質  
 素ながらも母の作ってくれた手料理、祖母が  
 届けてくれたおいなりさん、父が探し回って  
 買ってきてくれたチョコレートたちが、心の  
 支えでした。家族が全員無事で、食べる物が  
 少しあれば、人はどうにか存るものです！  
 だから私は食べるのが好きです。ご飯の  
 炊けるにおいをかぐと、時折あの震災の時の  
 生活を思い出します。「ああ、ご飯のにおい  
 っていいな。」

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高原 瑠那 年齢 14 歳 職業・学校名 天吹中学校

私は東日本大震災が起きた時、天吹小学校  
 で帰りの会をしていました。帰りの会をして  
 いると急に突然学校がゆれ始めました。突然  
 のゆれでびっくりにしてそれがだんだん強まっ  
 ていってこわかったです。先生の合図で机に  
 もぐってゆれがおさまったのをまっていたら  
 私の記おく上り分くらい強いのゆれがうざって  
 いました。そして、ゆれがおさまってまた外  
 へにげました。まだ3年生でいるいる。11月24  
 日には、ていましてが無事おたひな人でした  
 とか、下です。おたひな人したあと並んでる  
 人がいました。私は家不願って、またと猫が  
 心配でした。おたひとても悪くておたひの子のが  
 つかうた下です。おたひの子とててつかうた  
 ておたひもたか土人おたひのておたひおたひていつ  
 した。おたひと猫は無事下、おたひの下がおたひ、おたひ、  
 この体験を通して思、おたひて、地震はと  
 ておたひをさしいこと。大地震おたひ、おたひ  
 とておたひ、おたひ地、復興おたひておたひ  
 将来おたひ少しでおたひおたひおたひておたひ。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 幸隆

年齢 13 歳

職業

学校名 矢吹中学校

ぼくは、3月11日の東日本大震災がおきた日は、学校がお休みでいて、友達と学校の校庭であそんでいました。

そのときにさびしんがありました。ぼくがあそんでいた、友達の家は、学校の前にあって、屋根がかわりました。そしてじしんが来たとき、ぼくはまだ、小学校3年生でした。なので、ないていゝ人もたくさんいました。

そして、友達の家屋根のかわりは、全部おちていきました。ぼくは、と休を見る前は、このじしんは、あまり大きくないと思っただけで、家のかわりがぜんぶおちていくところをみて初めてこのじしんは大きなんだなと思いました。

東日本大震災があつて、世界中のたくさんの人々や、じえんたんのかたなどにたくさんのおしえんや、こうこうがつどうなどをくもらいました。ぼくは、たすけあいは、いいなと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田百花 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中

東日本大震災が起った時に私は教室にいました。机が激しく動き、地震だと一瞬で気がきました。たまたま起さる小さな地震かと思いましたがだんだん強く揺れる度に、これはやばいなと思いついの下にかくれました。それで机が揺れがおさまらないので、ガラス一同で逃げました。校庭に着いてもプールの水があふれたり、土が揺れたりしていました。学校がこんなに揺れるから自分の家は大丈夫なのだろうか。家族は無事なのか。などが頭をよぎりました。不安にな、こぼれが出ましたでも早く迎えが来たので安心しました。家に帰ると家はぐちゃぐちゃで入れませんでした。水をもらいに役場に行き、たりして大変でした。今でも、家の壁にはひびが残り、土も揺れています。大震災の被害は大きく、多くの人々の命をうばわれました。ひびには大震災のつらさを残して、決して忘れる事はできません。いや、私達は忘れてはいけないのです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

2011年3月11日私は、学校で帰りの  
 学活をしているときでした。大きな音かして  
 校舎が大きく揺れました。最初は向かおうと  
 のか全然わかりませんでした。初めての体験  
 でみんなパニックでどこかに逃げているのか  
 が分からず外にある階段で校庭へ逃げました。冬  
 だったので階段は凍っていてとても足さにく  
 かったです。外は雪が降っていてとても寒か  
 ったのを覚えています。金曜日、しかも帰り  
 の学活の途中だったので、ジャッパーを着て  
 いる子、シューズを履いていない子がほと  
 んどでした。家に帰ると、和室の電気が割れ  
 ている水道から水が出なく、家の中がぐら  
 ぐらやでした。お父さんもお母さんもなかな  
 か帰ってこず、たのて姉弟3人で親の帰り  
 をまつていました。家族5人がそろそろほっ  
 とし、涙が止まりませんでした。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中野 有人

年齢 14 歳

職業・学校名 矢吹中

東	日	本	大	震	災	が	起	き	た	と	き	、	僕	は	ま	た	く			
現	場	を	理	解	で	き	ま	せ	ん	で	し	た	・	外	に	避	難	し	た	
石	の	の	、	し	て	も	ご	ち	か	、	た	に	し	が	記	に	残	っ		
て	い	ま	す	。																
え	ん	な	東	日	本	大	震	災	か	ら	今	年	で	も	う	5	年	た		
ち	ま	す	、	二	の	地	域	の	復	興	は	ほ	と	ん	じ	終	わ	り	ま	
し	た	が	、	他	の	地	域	の	復	興	や	、	福	島	県	自	体	の	風	
評	被	害	な	ど	い	は	、	ま	だ	ま	だ	終	わ	っ	て	い	ま	せ	ん	。
傷	や	建	物	は	時	間	が	た	て	ば	直	る	か	も	し	れ	ま	せ	ん	。
し	か	し	、	風	評	被	害	は	ど	う	で	し	よ	う	か	。	実			
際	5	年	た	、	た	今	で	も	風	評	被	害	は	あ	り	ま	す	。	僕	
は	、	自	分	の	ふ	ろ	さ	し	を	悪	く	言	わ	れ	る	の	は	し	て	
も	嫌	で	心	が	痛	い	で	す	。											
二	の	風	評	被	害	を	無	く	す	に	は	、	福	島	県	の	良	さ		
を	伝	え	な	け	れ	ば	な	り	ま	せ	ん	。	二	の	事	は	特	に	難	
しい	に	し	て	は	な	く	、	僕	た	ち	中	学	生	に	も	で	き	る		
に	し	て	す	。	時	間	は	か	か	る	か	も	し	れ	ま	せ	ん	が		
少	し	づ	づ	で	も	元	の	福	島	に	戻	っ	て	居	し	て	い	ま	す	

(20文字 × 20行)

氏名 浅井 新

年齢 14 歳

職業・学校名 知ん 中

東日本大震災では、地面がどかゆき、地面  
 や壁にひびか入るなど、とても、怖い大いけ  
 んをしました。海の近くの所では、窓がこゆ  
 らたり、ゆくえふあいの人が出たりして、と  
 てもかたしい大いけんをしたら人たちがたく  
 んいるので、ひびの大きい所から、ひと  
 んと復興してほしいです。矢吹町でも、ひび  
 の大きな所があ、たり、ひびか入、てたり  
 しているので、そちらも、なおしてほしい  
 です。やはり、東日本大震災では、こわい大い  
 けんをしたので、もう東日本大震災のよう  
 大いけんをもうしたくないし、たいていの  
 けい、僕たちの心には、東日本大震災の  
 こわさを知、ているので、もう、ひびの大  
 きな所では、もう、こわい大いけんをしない  
 であらうと思います。僕たちは、そうをう  
 つかたいたいたけんをたのびたいので、ひ  
 びの大きな所から復興してほしいです。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 古内 隆翔 年齢 14 歳 職業・学校名 知次中

ぼくは、東日本大震災を経験して思ったの  
は、地震はなぜ起こるのかと思いました。  
震度7はぼくたちがけいけんしたことでした。  
とても恐かったです。小学校のころは、地震  
をけいけんしました。急に学校がゆれ、全校  
生徒が外へかけ出していきました。そのころ  
ぼくは、善郷小の6年3組で帰りの学活をや  
っていたころでした。そして、外にいくと、  
外にいても、地面がゆれていて、教室から  
火がでたり、アールの水がこぼれたりして、  
とても大変でした。もう二度と、地震をけい  
けんしたくないし、今でも行き方不明のふか  
アールが、そうに思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤井 玲衣 年齢 14 歳 職業・学校名 学生、矢吹中学校

僕は小学校3年生の頃に東日本大震災を経験しました。帰りの短学活をしている時でした。ゴー、という聞いた事のない音のあとに突き上げられるような揺れがきました。教室の物は動きをわり、僕もパニックでした。僕も大きくなり、町などもたんたん直ってきました。しかし、原子力発電所の事故は海から離れた僕の住んでいる町でもいまだに心配されています。

これからは、僕達が大人になり津波の被害をうけた沿岸部や原子力発電所などの問題などを復興、解決していかなければならないと思いをしました。

そのほかにも、これから生まれてくる子供達や震災後に生まれた子供達にも、しっかりと伝えていけなないと思いました。

このような経験をしたので、これから起こるといわれている大地震などでは、もう一度このような事が起こらないように努力してもらいたいのです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 石川悠希

年齢 13歳

職業・学校名 石川悠希

東日本大震災の時、自分も家にいました。か  
 げをひいて、早退していった。地震が起き  
 ると、立、という本がいきなり地震が起き  
 ました。外にいきいで逃げた。家のガラス  
 が割れていました。震本がおさまり、家に戻  
 るとカベのビビが入り、こいた。外のマス  
 ホールはうま上り。水が使えなくなりました。  
 近くの公園には、大きな地震が起きて  
 いました。被災の住人びい町が電柱が倒  
 れていました。

◇  
 今回の震災は、たいたい復興して、放射能以  
 外は良くなりまし。大震災前よりよくなりました。  
 りました。ととも取りがたいです。  
 もうかむに、この町は復興していきのび、と  
 うな気持ちです。おのび、ほかの津福りの町  
 村にし金を回してほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 豊野 勇斗

年齢 14 歳

職業・学校名 知吹中学校

ぼくは4年前の3月11日にとても大きな地震  
 をしました。あの時はとても大きな津波  
 が東北地方をばたいたくさんの人が死んで  
 しまいました。かききのしたじまに音一たり  
 津波はながされたりとかさうゆうニュースを  
 テレビで見ているとすごくかわいそうとおも  
 います。これからもしんがあると思うから  
 築港川にはてはらうきをつくってたりして津波か  
 らにけされるようにしたほうがいいと思いま  
 す。がいきにかんしてはてはらうきなくし木をう  
 えてそれをていの代わりにするほうがいいと思  
 います。

氏名 三村 萌 年齢 14歳 職業・学校名 知中

私が東日本大震災を体験して、思った事が二つあります。一つ目は、し、かり避難訓練をやることです。実際海に近い学校などは、避難をする事が命にかかれるので、避難訓練を真剣にやらねえと、りけねえと思ひました。二つ目は、おちついたらはんせんとをやることです。緊急いたいになると、あせ、てん乱してしまふので冷静にかにに避難するを考へた、り、です。

大震災を経験してもうすぐ五年かたちます。か、被害をうけたところは、りませ傷あとかの二つています。その傷あとをいじがっ消しています。また、震災前よりも町なとみんなの団結が盛してりけるといひなと思ひました。

匿名希望

東日本大震災を経験して今までの訓練などが  
大いに役立ちました。私たちは、まだ入学先  
で、とても怖い思いをしました。家に帰、下  
みたら、特に大きな損傷はなく、血も割れず  
糊もたおれてなく、本当に幸いでした。しか  
し、本が出なく、生者にはとても困りました。  
このような状況がいつまで続くのか、最初は  
本当に不安になりました。死がよくやく戻、  
たとき、嬉しか。た二とを今でも覚えていま  
す。今ではそんなことがありえなく、あのた  
うは怖さを、皆、忘れかけています。私は、  
ず、とず、とず、と未来にも、このような経  
験を残していきたくです。津波で被災した人  
のこと、放射線の影響を受け、ひびんしてい  
る人、故郷にいまだ帰れない人。さまざま  
人がいて、さまざま経験をしています。こ  
の辛さを、心にも忘れほしくなると思っ  
ています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙  
氏名 久保田 晴海 年齢 14歳 職業・学校名 久々中学校

僕が小学校三年生のある日、お母さんと一緒に帰りの  
 単学路を歩いていた。するといきなり大き  
 く教室がゆれた。僕達はすぐ机の下に身をこ  
 めて先生の合図を待った。地震が終わってしま  
 ったのかと思いきや、今度は「校庭に逃  
 げなさい」という指示のもと僕達は駆け出し  
 た。避難訓練を歩いていたお母さんが素早く逃  
 げる事ができた。その後も地震が何度も続  
 続と続いた。しばらくすると親が来てくれた。  
 車で道路を通ると、がれきりがあちこちに見  
 られた。マインホールが盛り上がり、あちこちで見  
 られる建物があつた。地震の怖さを知った。テレビで  
 は津波の被害もあつた。大人も被害の状況  
 を知らなかった。僕は体がふるえました。  
 僕達は大きな被害を受けたが、良い事も  
 あつた。それは、近所の人々が助け合いによ  
 って深まっていた絆です。その絆によってこ  
 の大きな災害を乗り越えられたのだと僕は思  
 いました。

匿名希望

僕は、東日本大震災を通して、学んだことがいくつもあります。

1つ目は、東日本大震災を通して、人々との絆がうまれたことです。人が人を助け、みんなにより寄り、温めあうことで、寒さをしのいだり、心があたたかくなったりします。

実は、僕も、ボウと力いアをしていたので、すごく助けあうという大切さに気付き、学びましたし、他にも、愛情や、いろいろな物が形をしてみえました。

◇

今後、この東日本大震災を通して、生活にかした事は、2つあります。1つ目は、災害時の対応やしよちです。いろいろながあってもおかしくないので、災害用のバックなどを用意しておき、2つ目は、東日本大震災でつちか。た、多くの感情を忘れずに、嬉しかったことや、悲しい事もあります。その壁を乗り越えれば、その先には、華やかな事や、楽しい事があるはずなので、今、一番近くにある課題をこの2つとこなしていかうと思つています。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊田 翔太 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

東	日	本	大	震	災	、	そ	れ	は	、	ま	だ	驚	か	、	私	た
ち	に	と	っ	て	今	ま	で	生	ま	て	ま	た	中	で	一	番	恐
ろ	し	か	、	私	に	と	っ	て	は	な	い	だ	ら	う	か		
割	や	る	窓	、	お	し	お	壁	、	た	お	け	る	机	。	本	当
に	本	当	に	怖	か	、	た	。	家	族	の	安	否	が	心	配	ら
た	。	こ	れ	か	ら	い	う	な	、	て	し	ま	う	の	だ	ら	う
と	思	、	私	は	あ	れ	か	ら	5	年	、	私	た	ち	の	平	和
な	日	常	は	と	り	戻	さ	れ	つ	つ	あ	る	。	建	物	は	修
復	せ	れ	、	地	面	も	補	装	さ	れ	た	。					
こ	う	し	て	、	普	通	で	平	和	な	日	常	を	お	く	け	る
こ	と	は	、	と	て	も	幸	せ	な	こ	と	で	は	な	い	だ	ら
う	か	。	こ	ん	な	生	活	が	ひ	ま	り	の	て	、	当	た	り
前	だ	と	思	、	て	は	い	け	な	い	。	あ	の	震	災	の	恐
ろ	し	さ	を	忘	れ	て	は	い	け	な	い	。					
私	た	ち	が	し	な	け	れ	は	い	け	な	い	こ	と	、	そ	れ
ま	こ	の	震	災	を	語	り	継	ぐ	こ	と	で	あ	る	。	周	化
さ	せ	が	伝	え	る	こ	と	は	難	し	い	か	も	し	れ	な	い
か	、	あ	の	震	災	を	乗	り	こ	え	た	私	た	ち	に	な	ら
う	、	ま	、	と	っ	て	ま	り	ほ	ら	だ	。					

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤田 有美 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

2011年、3月11日大震災が発生。当時私は小学3年生でした。初めての経験でも、これが、たびす。学校からの帰り道で私は町のかわりはてた姿にとてもおどろきました。道路に土びが入っていたり、壁がくずれていたたりしました。家に帰って水を水道から水は出ません。私の部屋に入るとがうすのケースが落ちて割れていました。その光景は私にとって恐怖でした。

現在では道路も水道も直りました。そして私は自分の家に住むことができます。でも大きな被害を受けた人は自分の家に住むことができません。津波で家を流された人原葬で家に帰れない人はまだまだたくさんいます。復興には時間がかかると思いますが、少しでも早く元の福島に戻り、全員が自分の家に帰ることができたらいいなと思います。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私は、震災当時3年生でした。まだ、学校  
 へのこのっていたため、震災も学校の中下体験  
 しました。帰り①会をしていた私は、急にゆ  
 れたため、いっせいに、机の下にもぐりこみ  
 ました。あまりの、ゆれのすごさに、泣いて  
 しまう友達もいました。私も気づいたら、な  
 みだも流してしまいました。校庭にかけだしたも  
 のの、まだ、少し気持ちが落ち着いていませ  
 んでした。家に帰ってからも、荒れた我家を  
 見ると、ひどかったんだなあ、と思いました。  
 震度6.5。すごいゆれた。たなあと思、た  
 私。下も、なりは町の様子を見せると、震  
 度があまり変わりがないのに全然、被害がち  
 がうのでとてもおどろきました。  
 私は、これから、まだ、家に帰ることが下  
 きていない人々のことを心に、しま、て生活  
 したいと思いました。将来は、人の役に立て  
 る仕事がしたいと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 夕ヶ 俊花 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は震災で怖い思いをしました。あの時は  
 日常の生活を過ごし、勉強に集中していまし  
 た。なんのまえぶりもなく、突然地震がお  
 きました。

そのころは避難訓練も行なっていたので、  
 すばやく校庭に集まることができました。ど  
 うすることもなく、ただ座っているだけでし  
 た。

家に帰ると、家具が倒れ、足の踏み場もな  
 い状況でした。どこから手を付けていいのか  
 わかりませんでした。

今後、こんな思いをしたので、立ち直れば  
 人もいると思います。この体験を生かして  
 いきたいと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星千裕 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

私	は	東	日	本	大	震	災	で	体	験	し	た	こ	と	は	自				
分	の	中	で	は	初	め	て	の	あ	ん	な	に	大	き	な	地	震	だ	。	
た	の	で	す	ご	く	驚	い	た	の	と	。	と	て	も	怖	か	っ	た	で	
す	。	も	う	。	あ	ん	な	体	談	は	し	た	く	な	い	と	思	い	ま	
し	た	。																		
あ	れ	か	ら	。	5	年	後	た	。	て	今	の	状	況	は	。	前	は		
お	米	や	野	菜	な	ど	は	普	通	に	販	売	し	て	い	た	の	か	。	
今	で	は	。	放	射	能	と	い	う	の	が	あ	る	よ	う	に	な	。	て	
福	島	で	作	ら	い	た	野	菜	や	お	米	な	ど	を	放	射	線	が	高	い
か	低	い	か	調	べ	て	。	売	れ	る	か	売	れ	な	い	か	を	決	め	
る	よ	う	に	な	。	て	し	ま	い	ま	し	た	。	ま	た	。	野	菜	な	
ど	を	買	う	時	。	「	こ	れ	は	福	島	県	産	だ	か	ら	。」	と	い	
う	こ	と	も	あ	り	ま	す	。	こ	れ	は	私	達	に	と	っ	て	。	少	
し	嫌	な	気	持	ち	に	な	り	ま	し	た	。								
私	の	福	島	に	対	す	る	復	興	へ	の	思	い	は	。	福	島	に		
対	す	る	不	安	な	ど	を	少	し	で	も	な	く	な	る	よ	う	に	な	
れ	ば	い	い	な	と	思	い	ま	す	。	後	。	東	日	本	大	震	災	で	
被	害	に	あ	っ	た	人	達	が	も	と	の	生	活	に	戻	れ	る	よ	う	
に	も	な	れ	ば	い	い	な	と	思	い	ま	す	。							

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私が小学校三年生の時に東日本大震災を体験しました。帰りの会の時に急に大きく揺れてとてもこわかったです。今でもその時味わった恐怖は鮮明に覚えています。  
 今私がするべきことは、このことをしっかりと後世に伝えていくことだと思えます。またその時に被害にあった建物などを残すこと、亡くなった方々を追悼することだと思えます。  
 この震災によって学んだこともあります。それは「大きな震災は予想できないことです。」  
 今回の地震も急に来ました。そのすぐ後に大きな津波もやってきました。このことにより今まであたりまえのようにあった「水」が手に入らなくなりました。飲料水や配給をとりにいたりするための「ガソリン」も手に入らない日が続きました。  
 このようなことから目覚めるから防災の意識を高めていく必要があると思えます。そのため防災リュックなどを備えるのも大切だということも分かりました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 近内莉子 年齢 14 歳 職業・学校名 学生、矢吹中

私	は	、	今	か	ら	約	5	年	前	の	2	0	1	1	年	3	月	1		
日	に	と	て	も	大	き	な	震	災	を	経	験	し	ま	し	た	。			
あ	の	と	き	私	は	小	学	3	年	生	で	し	た	。	職	員	会	議		
が	あ	り	、	そ	の	日	は	早	く	帰	り	ま	し	た	。	私	は	児	童	
ク	ラ	ブ	に	入	っ	て	い	た	の	で	す	が	そ	の	日	は	習	い		
事	が	あ	っ	て	、	バ	ス	で	下	校	し	て	い	ま	し	た	。			
バ	ス	で	、	一	人	目	の	生	徒	の	家	に	向	か	っ	て	い	る		
と	き	に	地	震	が	お	き	ま	し	た	。	バ	ス	が	倒	れ	そ	う	な	
ぐ	ら	い	ゆ	れ	て	、	幼	な	か	っ	た	私	に	と	っ	て	、	こ	れ	
ま	で	に	な	い	怖	そ	を	感	じ	ま	し	た	。	道	路	も	が	夕	か	
夕	か	に	な	り	、	学	校	に	引	き	返	す	の	も	大	変	で	し	た	。
私	は	小	学	校	に	一	晩	泊	っ	て	家	に	帰	り	ま	し	た	が	、	
家	は	新	築	だ	っ	た	の	に	、	そ	こ	ら	中	に	ひ	び	が	入	っ	
て	、	ひ	っ	く	り	し	ま	し	た	。										
こ	の	5	年	前	の	で	ま	ご	と	を	私	た	ち	は	忘	れ	て	は		
い	け	ま	せ	ん	が	、	大	切	な	の	は	、	5	年	前	か	ら	前	へ	
進	む	こ	と	、	こ	の	経	験	を	次	の	困	難	に	活	か	す	こ	と	
だ	と	思	い	ま	す	。														

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 富永裕香 年齢 14 歳 職業・学校名 知吹中学校

今年三月で東日本大震災から五年。かれ  
 もが決して忘れぬことができない日です。僕  
 は小学三年生でした。帰りの学活中にいきな  
 り先生のケータイが鳴り響き、空を飛んでい  
 るような感覚の後にあの激しいゆれが僕達を  
 おそいました。今まで生きてきて、間違いな  
 く一番こわい体験でした。ゆれがおさまった  
 後、校庭にひなんした時に見たボコッと穴の  
 空いたアスファルトを今だに覚えています。  
 そして今、改めてその時のことを思い出して  
 みると、自分は本当にすごいことを経験した  
 んだなあと思ひ直すことが出来ました。  
 僕が東日本大震災を経験して学んだことは  
 もしもに備えて準備をやる大切さです。それ  
 までは地震なんてせいぜい3か4か5いしか  
 こないと思ひこんでいましたかそんな油断を  
 この地震を通して、消してあげたらしいなと  
 思います。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 矢内陽一朗

年齢 14 歳

職業・学校名 矢吹中

僕	は	、	3	年	生	の	時	に	東	日	本	大	震	災	が	お	き	ま		
し	た	。	そ	の	と	き	の	体	験	は	、	上	か	ら	物	が	お	ち	て	
き	た	り	、	か	で	に	い	び	が	入	。	た	り	、	な	と	た	く	さ	
ん	こ	わ	れ	た	も	の	を	み	て	、	僕	は	地	震	で	こ	わ	い	も	
の	な	ん	だ	な	と	思	い	ま	し	た	。	今	は	、	な	に	ご	と	も	
な	が	、	た	が	の	よ	う	に	、	い	び	わ	れ	が	、	こ	わ	れ	た	
も	の	は	、	あ	ま	り	み	な	く	な	、	そ	き	た	と	感	じ	て	い	
ま	す	。	復	興	の	想	い	と	し	て	は	、	ほ	う	し	ゃ	せ	ん	が	
な	い	公	園	な	ど	で	あ	ん	ぜ	ん	に	遊	べ	た	ら	い	い	な	と	
お	も	い	ま	す	。	矢	吹	町	に	は	、	フ	ッ	ト	サ	ル	場	が	で	
き	て	、	前	よ	り	は	い	い	と	思	い	ま	す	。	こ	の	地	震	の	
こ	と	を	わ	す	れ	ず	に	生	き	て	い	き	た	い	と	思	い	ま	す	。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 雅也 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

トラップ、トラップと来ると、今でも一瞬ドキリ  
 とする。それでも最近では、夜中の地震に気が  
 つかなかつたり、気がついていしも寝が床をた  
 りしななした。震災の後、しばらくの間余  
 震もあったので家族全員リビングで寝起キし  
 ていた。自分はダイニングテーブルの下に布  
 団を敷いて寝た。一番小さかったため一番  
 安全な場所を家族に与えてくれた。枕元にほ  
 ろ燐石のハルマツト。ダイズニールンクのお  
 土産でもらった。そのハルマツトのハルマ  
 ツトがこれも役に立った。自分にとってはお  
 守りのように感じた。今でもハルマツトほり  
 ビンゴに置いておき、ずっとお守りとしてお  
 守りしていたが、今年作し直そうと気がする  
 震災翌日、父の知り合いがとらわつたお  
 守りカニの水一トンを積んで届けてくれた。  
 父は所所のお守りカニを分けてくれた。今こ  
 も感謝を述べている。助け合いは大切だ。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 斎藤由菜 年齢 14歳 職業・学校名 祝中学校

私	が	小	3	の	頃	、	東	日	本	大	震	災	が	起	き	ま	し	た	。																																																																																					
初	め	て	地	震	の	恐	怖	を	知	り	警	報	が	鳴	り	じ	と	に	、																																																																																					
怯	え	身	の	安	全	を	確	認	し	ま	し	た	。	毎	日	の	よ	り	に																																																																																					
余	震	が	続	き	、	津	波	が	こ	と	ま	で	は	こ	な	め	、	た	。																																																																																					
ほ	ろ	だ	良	い	、	た	で	す	。	し	か	し	、	水	が	出	ず	ト	イ																																																																																					
し	も	お	園	召	な	ど	の	日	常	生	活	で	欠	け	ら	れ	た	部	分	で																																																																																				
と	て	も	不	便	で	し	た	。	この	経	験	か	ら	、	水	の	大	切	さ	を																																																																																				
知	り	常	に	節	水	を	心	掛	け	て	い	ま	す	。																																																																																										
不	可	が	、	私	達	お	り	心	に	も	の	お	じ	く	大	き	な	傷	を																																																																																					
負	っ	た	人	は	数	え	ず	お	な	い	ほ	ど	た	く	お	ん	い	ま	す	。																																																																																				
未	だ	に	行	方	不	明	の	人	も	、	大	切	な	人	を	失	な	っ	た	人	、																																																																																			
ど	れ	だ	け	の	悲	し	み	だ	、	た	で	し	よ	う	。																																																																																									
も	ち	ろ	ん	今	も	そ	の	思	い	は	変	わ	っ	て	ら	い	こと	と	思	い	ま	す	。																																																																																	
戦	争	と	は	ち	か	っ	て	、	自	然	災	害	等	の	ど	い	つ	何	が	起	こ	う	か	は	分	か	ら	な	い	の	ど	止	め	る	こと	は	な	い	け	ど	、	今	生	き	て	い	る	こと	を	誇	り	に	思	い	、	一	日	一	日	と	悔	い	た	く	過	ご	し	て	い	ま	す	た	い	で	す	、	一	番	は	、	二	度	と	こ	の	よ	う	な	事	が	起	こ	ら	な	い	身	を	祝	っ	て	い	ま	す	。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 保任 紗恵子 年齢 13 歳 職業・学校名 友吹中学校

東日本大震災を体験して思った事は、自然の本  
 当の怖さ、避難訓練の大切さを知る事がで  
 きました。多くの方が亡くなったのはとても悲  
 しいですが、震災のおかげで人の命の大切さ  
 をたくさん学ぶ事ができました。

今、「福島は放射能が怖い」とか聞  
 くのがすごく悲しいです。原子力が爆発した  
 のは、仕方ない事なんです。そういうふう  
 に福島県はこれからイメージがあると観光に  
 来る人なども少なくなるのではさみしいです。

私は、福島はこれから所々よとても美しい所  
 だよ、て散々行ってみたい。私は地震があ  
 った時はとても怖かった。でも、つらかった。でも、テレビなどで他県が復興へ向か  
 っていくの姿を見るとすごく勇気がで  
 きました。私は 岩手県や宮城県、福島県の町  
 の姿が1日でも早く元の姿に戻ってほしいと  
 思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 関口智礼 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

地震が起きた直後は、僕は帰りの準備を  
 しているときでした。小さな地震のように  
 思えた瞬間に、変な揺れへと変わり、大きな  
 地震へとなりました。そのとき自分はすぐさま  
 机の下に入り、先生の指示にしたがって、  
 校庭に逃げました。今、そのことを考えると  
 今までやってきた防災訓練というものがどれ  
 だけ大切かということに思うまじい思いが  
 しました。なぜなら、訓練をしていなければ、どう  
 行動したら良いか分からなく、パニックしてしまっ  
 たらまずい。そして、この震災で命の大切さ  
 などの多くのことを学ぶことができました。  
 まだ、復興が進んでいませんが、できる限  
 り早く復興を遂げたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 齋藤 裕 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

東日本大震災が起こった日、僕はまだ小学  
 3年生の頃お帰りの会をやっていたときにい  
 きなりきました。最初は少し大きめの地震だ  
 と思っ て机の下に入りました。でも、その後  
 にすごく強い揺れがきました。棚の上にあっ  
 た物はほとんど床に落ち、ランドセルなども  
 ロッカーから出てしま、たものもありました。  
 そして、少し揺れが弱くなって校庭に出たら  
 校庭は地割れしてあるところもあり、プール  
 の水もあふれ出していました。本当に起こっ  
 ていることなのA信じなくないほどその時は  
 怖かったです。そのまま校庭で生徒は親のむ  
 かえを待っていたりしました。親を待。てい  
 る間もいつさっきみたいな地震がくるのかおび  
 えながら待。ていました。本当に大震災が起  
 きた日は忘れられない日です。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 本藤 梨子 年齢 13歳 職業・学校名 大塚中学校

「かたがたがた」

と大きな揺れで始まった東日本大震災。私はまだ小学生でした。とても怖かったです。とても驚きました。この大震災では、多くの方々が被害を受けお世いとなりました。そんな大変な事が起こっても、前向きで生きる方々など、色々な思いで、生きている人がたくさんいると思います。私にとって、ある東日本大震災は、心に大きな傷をつけ、一生忘れられない悲しみとなりました。そんな中、私達を救ってくれたのは、復興をど手伝ってくれた方々です。私はこんな方々をほこりに思います。入会を救うすがたはとてもか、よくみえました。東日本大震災から4年9ヶ月が過ぎようとしています。今でも家族がみつからない人々はいらるんだと思います。私は自分の力で少しでも早く見つけたいです。今の福島には、たくさんの方が出来ると思います。そんな福島を助けていきたいです。これからの未来ががんばりたいと思います。

匿名希望

3月、東日本大震災が起き、多くの人の命が無くなくなった。震災が起きた日の後も「同じようなことがまた起こるのか」とおびえていたが、周りにはそれどころではなかった。

地震による影響は大きく、海岸付近では津波が発生し、大きさは30メートル程になり人々を飲み込んだ。さらに福島では原子力発電所で放射能物質がもれ、広い地域が汚染され帰宅困難者と呼ばれる人が相次いだ。

私はその2つに関与しないような場所で助かり、希望がいくらでもあった。しかし、その2つの関係者は親族が死んだり、故郷に帰るなかなかったりする人が多く絶望しか見えないうような状況だった。

そんな悲劇から今年で5年が経とうとしている。だが、まだ5年とも言える程復興はまだまた先が長い。死への悲しみ、故郷恋しさの心がまた癒えぬことがない人々がいる。

純生浩とない心の痛みは絶望に染められ大人を一刻も早く希望を復興で深めて欲しい。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

私は福島県の復興について思ったことは、  
 これからも福島のヒーローをつぶけていけ  
 ばいいと思います。前から福島はヒーロー  
 をしていますが、福島のイメージはそんなに  
 変わっていないと思います。よく聞くのが「  
 福島って震災の土地でしょ？」など「津波と  
 か大丈夫だ。たぬ？」などです。こちらへん  
 は地震で済みました。海側の人は相当の被  
 害があつたでしょう。私達は津波などこち  
 までくることはありませんでした。被害  
 は少ない方でした。ですが、お同じ福島県、  
 そう聞かれるのも無理はないです。私が北海  
 道に行つたとき、福島のヒーローで野菜を  
 もつていきました。もらつてくれた方ともらっ  
 てくれた方がいました。つづけていけば  
 福島の事をいいと思つてもらえると思うので  
 す。なりの津波がきて被害が大きかったここ  
 のために力をあわせて、福島の復興をがんば  
 ばっていきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 井上大陽

年齢 14 歳

職業

学校名 矢吹中学校

ぼくが体験したことは、東日本大震災です。  
ぼくの家は、ガラスが割れたり、家のドアが  
あがなからたり、トイレが使えなからたり、  
食料がしばらく入らなからたり、いろいろな  
いへんな思いをしました。そしてしばらく学  
校のみんなに会えなからたり、にも取り  
に学校に行き、たが学校の中は、ぐじぐじ  
でした。そのときに買い物に行きました。ど  
こを見ても、ぐじぐじで立おれていると  
ころもありました。鹿もたくさん人が並ん  
でいて、並ぶのがたいていでした。テレビを  
見るとほかの県では、津波みで多くの人の  
命がなくなからたり、家族とはなれて暮らした  
り、かおらそうでした。ぼくは、命は、大切  
なことだと思いました。おつるかおらな  
いのでし、かり自分の命を守るようにした  
りです。し、かりいつても自分の命は、し、  
かり守るようにしたいりと思ひます。し、か  
り一日一日し、かり生きてりまたりであ大人  
な、ても忘れたりようには人ばりたりです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三村 博文 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

あの東日本大震災から、まもなく五年が経つ  
うと七年が過ぎ、僕は、今でも思い出す。今  
にもおそろしく感じます。僕は、あの時学校  
にはいました。最後の授業も終わらず、帰りう  
ていた時でした。避難訓練もや、してしま  
っていた。まもなく五年に大震災がくる  
とは思っていませんでした。この時、避難訓  
練の大切さを改めて痛感させられました。経  
験したときも、なにか地震におどかして、再び  
静まりていきました。中には、七つもとわく  
泣いていす人もいました。それから、僕は  
は、安心して生活する、こともできなくな  
りました。津波や原発事故も不安からして  
震災から、まもなく五年、あの時のおそろ  
しさを何処の人も覚えていすていた方が、お  
ろしく、避難訓練にも大震災といすてしま  
う。七か七、それを忘れたら、犠牲にな  
らぬ人の命が無駄にならしてしまします。だ  
から、+火+火が深、七で忘れたら、元々  
いす、+火+火が深、七で忘れたら、元  
いす、+火+火が深、七で忘れたら、元

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

僕は小学三年生のときに東日本大震災に合  
 いました。あんなに大きな地震は生まれて初め  
 ての経験でした。僕は先生の指示にしたがい  
 すじに机の下にかく木ました。ゆれがおさま  
 ったから急いで外に逃げました。こうしての  
 ちでいあ木がおまていて、プールの水  
 はこうしてにあふれていて、ほとんどの女  
 子や、低学年の人たちが泣いていました。ほ  
 うしてにある大きな照明がたむいていて、  
 今にじもたか木えうむこわが、たです。

僕は友だちの車にのせてもうい家に帰しま  
 した。家に入ると水えうがたあ木てビシユぬ  
 木の床や、電子レンジが落ちてへこんだ床ま  
 どで家の中がめちゃくちゃでした。そのころ  
 けいあみてぼしは、あまが入ったのうと思  
 ってしまろほどあ木ていました。

これほど怖い体験はしたくないとおもいま  
 した。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 向井直也 年齢 14 歳 職業・学校名 知吹中学校

2011年3月11日の東日本大震災は今でもおそろいおそろい。僕はあのときまだ小学4年生でした。そのとき僕は児童クラブで友達とサッカーをやっていました。そして、いきなり大きくなりました。僕は、いきなり変わったのでとてもおそろいになりました。しかしみんなで協力し合っていたのでよかったです。そのおかげでこうして今を生きていられます。しかし、津波などでなくなりました。た人がたくさんいます。なので僕はそのおかげで、た人の命までしっかり生きようと思います。そして今でも府方利明の人やまだ建てたばかりの建物がいっぱいあります。それに僕は少しでも協力して、1日でもはやくおそろいおそろいにしてほしいです。そして、僕達が今後の未来を作るために、たのしく笑顔で、これからを過ごしていきたくたいです。そして、この大震災のことを忘れず、大人になってもとき子供に教えたりしたいです。このことをおそろいおそろいから生きていきます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

「あ、これ死ぬかぞな」あの時、頭をぶつきた  
 た最初の気持ちである。あの時、私は小学三年  
 生で、た、その瞬間は帰りの会をしてい  
 た。「後少しで帰れる」皆がそう思っている  
 時に突然ゆれ始め「今日も大変だね」と思  
 っているとそのゆれは、段々と大きくなり、先  
 生が大きな声で「机の下に！」と言った。皆  
 が素早く隠れる。地這いのような長さだ。た、  
 校庭にひびく音で、グラウンドのナイター  
 用のライトは傾いていた。これが私の見た大  
 震災である。その後、原発事故が起き、風評  
 被害が起きた。あれからもう五年がた、た。  
 復興が続けられている。しかし、風評被害や  
 デマが消えることはなかなか、た。何時にた、た  
 ら消えるのか。復興にはまずデマ等の情報を  
 無くすのが良いのはいは？とも思う。放射能が  
 消えるまでに約三百年かかるとも言われて  
 いる。技術革新等が一早く元通りになればい  
 いなと願う。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 岩瀬 屋 年齢 13 歳 職業            学校名 矢吹中学校

三月十一日、僕たちは、東日本大震災に  
 いました。

ものすごく大きなげれで自分では、どうす  
 ればいいのか、分からず、机の中に隠れるの  
 が精一杯でした。

地震発生後、校舎からすると、壁くへまで  
 景が広がってしまいました。コンクリートは地面  
 化し、小さな木などは、たおねていて、元の  
 学校の風景が分かりなほどでした。

家に帰ると、家の中の物が、ほとんたお  
 れていて、歩くスペースが、あるかないか  
 書いてした。

テレビを付けると、津波の被災者が二万を  
 超えていました。僕は二で初めて津波の恐  
 さを知りました。

自然災害はどつや、ても起きてしまいま  
 えの時のために防災をしておきましょう。

匿名希望

僕は、大震災のとき、3年生の終業ソのこ  
ろでした。  
帰りの会をやっているとき、に外から変な  
音かしました。その時大きな地震がきました  
とっとも大きくてすぐには逃げませんでした  
外にいくとまた地震わつづきとっとも寒い中  
ずと外にいました。  
家には、帰るとお皿が全部割れていました。  
2日目お買物に行くと食品がなくまた、車  
も終業ソのませんでした。  
ととと僕は、缶詰めはと、とても大切な事に  
気づきました。食べるのが古いので2月日は  
なにを食べなからた。コンビニやとパン  
や缶詰を買いました。それからお母さんとお  
父さんは食べ物が僕たちには全部わな(食)な  
。と言いました。東日本大震災はとっとも  
おの災害でした。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 国井 桃子 年齢 14歳 職業 学校名 天吹中学校

東日本大震災から、今年と10ヵ月の月日が  
 経ちました。今思い返してみると、当時は3  
 年生の9才といふ幼さで、あの大地震を乗り  
 越えたんだなあと、なんだか不思議な気持ち  
 になります。地震が起きた後、クレーンのせま  
 な音が聴こえていたのを覚えています。上級生の  
 人たちが泣いていたので、とても驚きました。  
 私自身は、よく分からなくて、なんでみんな  
 が泣いているのかも分からなくて、戸惑  
 っていました。

地震が起きた直後、職員駐車場のようにな  
 り3トテントが張られ、トウモロコシの中にな  
 当時3月で寒い。たのふ、寒くなさなはいよ  
 うに火がたかかました。それで、迎えに来て  
 くま子のと、何人かで毛布に入、待、とい  
 ました。後、水が使えなくなったり、食料品  
 がお店からなくなったりして、お風呂にも  
 週間くらゐ入れなかり、本当に大変だ  
 たので、そんな辛い事を皆が乗り越えさ  
 ったといふなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 堀井 茜 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

私が東日本大震災を体験したのは、小学校  
 3年生の時でした。その時は学校にいてとて  
 も大きな揺れを感じました。外に避難すると  
 物が壊れていたり、大きな木の枝までが折れ  
 て落下していました。そして、泣いてる人が  
 いたのがなによりこの地震は普通じゃないん  
 だと実感しました。私が一番ショックだった  
 のは、家が壊れていたことです。避難をして  
 から、毎日不安でいっぱいでした。ニュース  
 で津波のことや原発事故のことを知ってから  
 はより一層悲しかったです。  
 でもそんな不安をだんたんやわらげてくれ  
 たのが、ボランティアの人と一緒に避難をし  
 ていた子でした。毎日一緒に遊んだり、生活  
 をしていくことが楽しくなりました。  
 この地震で心に深い傷を負った人は多いと  
 思います。私は誰かに相談にのってもらった  
 けでも気持ち軽くなりました。復興とは、  
 このような小さいこともつながっていくと感  
 じます。少しでも早く進んでほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への願い」応募用紙

## 匿名希望

私	は	、	東	日	本	大	震	災	を	経	験	し	て	、	少	し	の	小	
さ	な	震	れ	で	も	と	て	も	こ	お	い	で	す	。	今	は	、	あ	ん
な	に	大	き	な	震	れ	を	経	験	す	る	こ	と	は	無	い	と	思	い
ま	す	が	、	い	か	れ	も	来	な	い	と	は	言	え	ま	せ	ん	。	地
震	は	、	自	然	的	に	な	っ	た	災	害	で	あ	り	防	げ	な	い	の
で	す	。	ま	た	、	も	屋	が	た	ち	恐	れ	お	け	て	る	面	も	あ
り	ま	す	が	、	こ	れ	が	ら	の	世	代	に	伝	え	ら	れ	た	ら	良
い	な	と	思	い	ま	す	。	東	日	本	大	震	災	は	、	3	月	1	1
日	午	後	2	時	4	分	に	起	こ	り	ま	し	た	。	家	に	帰	る	
と	、	皿	や	コ	ッ	プ	が	あ	ち	あ	ら	せ	、	宇	レ	ビ	が	割	れ
金	魚	が	死	ん	で	い	た	の	で	す	。	そ	の	時	、	ラ	ジ	オ	で
津	波	の	避	難	情	報	が	流	れ	て	お	り	、	私	の	頭	の	中	は
真	っ	白	さ	し	た	。	こ	の	先	ど	う	な	る	ん	だ	ら	う	。	学
校	に	い	っ	行	け	る	の	だ	ら	う	。	と	、	ず	っ	と	考	え	て
い	ま	し	た	。	こ	ん	な	経	験	を	し	た	私	達	は	、	少	し	だ
け	強	く	な	っ	た	気	が	し	ま	す	。	こ	れ	が	ら	も	、	何	れ
起	こ	る	風	分	が	判	ま	せ	た	が	み	ん	な	を	協	助	し	合	
の	完	全	復	興	に	少	し	で	も	近	か	け	る	よ	う	に	、	前	向
き	を	頑	張	り	た	い	と	思	い	ま	す	。							

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 続 穂 穂 年 齢 14 歳 職 業 ・ 学 校 名 徒 矢 吹

僕は東日本大震災を経験しました。とても  
 も大きな地震でおどろいたのを覚えています。  
 地震が起きたとき、僕は3年2組の教室に  
 いました。帰りの会の最中でした。みんなが  
 「さようなら」を言おうとしたとき、地震は  
 起こったのです。最初は並通りました。しだい  
 にゆれが強くなり、すぐに大きい地震だと、  
 僕は小さいながらに理解していました。教室  
 がとてもゆれ、机が体ごと揺動しました。口  
 ソカ-の中身もとび出し、何が起きているの  
 かさえかくにんできませんでした。しかし、  
 当時の担任の先生のすばらしい指示に僕たちは  
 たすかりました。すぐに校庭にひなんしまし  
 た。プールのコンクリートが割れ水があふれ  
 出し、ナイターが地面にしずみまじった。みん  
 なたはさうして顔を背がめながら、その光景  
 を見ていました。今でも忘れません、あの  
 ときを、今でも苦しんでいる人がいます。そ  
 れはとてもつらいことです。たのび復興が早  
 く終わるように僕も支援したいと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大竹 悠平 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

平成23年3月11日午後2時46分、あの東日本大震災がおきた。ぼくは小学3年生だ。た。当時かぜをひき学校を休んで、母と病院に車で向かう途中だ。た。緊急地震速報がなつた3秒後にあの大きなゆれがきた。道路が波を打ち電柱が大きくゆれ、地面にふせていた人さえも、大きくゆれ動かされていた。ぼくはもうこの世の終わりと考えた。怖を向かえに行き、家に着くとガスのおいが充満していて、水も出ないので祖父の家にひな人じた。目に見えない放射能におびえていたのを覚えている。

そしてこの東日本大震災で、物のありがたさ命の大切さを知りました。自然災害はとて怖いと思った。

福島のおいしいお米や野菜を多くの人にまた食べてもらえるように、安心・安全をアピールして行けたらと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 永野 雄也 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

2	0	1	1	年	3	月	1	1	日	2	時	4	0	分	私	は		
予	想	も	し	な	い	功	撃	に	お	そ	わ	れ	ま	し	た	と	て	も
驚	き	怖	い	出	来	手	が	し	た	そ	の	時	分	は	た	ら	し	た
帰	り	の	途	中	で	帰	る	準	備	を	し	て	い	ま	し	た		
僕	は	シ	ュ	ー	下	も	袋	に	し	ま	い	準	備	完	了	の	状	態
で	し	た	そ	の	と	き	に	あ	の	地	震	が	起	き	ま	し	た	
た	す	ぐ	に	机	の	下	に	か	く	れ	て	校	庭	に	非	難	し	ま
し	た	シ	ュ	ー	下	を	し	ま	た	の	で	は	だ	し	て			
校	庭	ま	ご	い	ま	し	た	そ	こ	か	ら	家	に	帰	る	と	き	も
も	は	だ	し	て	し	た	そ	れ	が	一	番	覚	え	て	い	る	こ	と
と	で	す	家	は	見	た	こ	と	も	ほ	い	姿	に	な	っ	て	い	ま
て	シ	ュ	ッ	ク	で	し	た	が	も	そ	れ	に	ま	り	前	よ	り	も
り	も	き	れ	い	い	家	に	生	ま	れ	か	あ	る	こ	と	の	良	か
良	か	と	で	す	日	本	全	体	に	た	く	こ	ん	功	撃	を	し	た
た	大	災	震	が	し	た	が	ま	り	こ	の	家	の	ま	り	に		
前	の	姿	ま	り	も	き	れ	い	い	良	い	姿	に	生	ま	れ	か	あ
る	こ	と	思	い	ま	す	た	の	で	私	が	い	て	い	る	こ	と	は
少	し	で	も	い	い	か	ら	や	り	い	ま	た	い	て	す			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星美澄 年齢 14歳 職業・学校名 矢吹中学校

私たちは震災の怖さを身を持って知った世  
代です。地震が起こったときは、地面が揺  
くり返って死んでしまおうのではなにかと、泣  
いた記憶があります。

幸いにも、私たちの地域は津波が来なか  
た為、沿岸部ほどひどい被害を受けませんで  
した。それでも地震は、私たちの町とびに大  
きな傷あとを賜ってしまいました。震災のあと  
も大きな余震が続き、放射線が危険だからと、  
何も分からなまま家で丸まっていたのが、  
強く印象に残ってします。もちろん、私より  
もっとも辛い思いをした人はたくさんいます  
かです。けれど、震災は確かに、忘れられな  
い記憶を植えつけました。今は町や市、村な  
ど人工的な被害の目に見えるものの復興が進  
んでいますが、復興が感じられるようにな  
るまで、人の心の復興も皆で考えていく必  
要があるのかもしれません。

氏名 窪木 空

年齢 13 歳

職業

学校名 矢吹中学校

私は、震災の時、小学3年生でした。今考え  
るともう、5年も経ている人だと思いまし  
た。私の住んでいた矢吹町は、そんな被害  
があつたわけではなかつたので、正直この作  
文の宿題が出されるまで忘れかけていました。  
復興のためには、まず被害にあつた人のま  
ま、あの経験を忘れないでそれをのりこえて  
いくことが大切だと思いました。矢吹町は被  
害はなかつたけど、福島市の方は、とても大  
変なところということをテレビで知りました。  
まず復興するには、福島市を元気に、かさ  
のあふりにする必要があると思いました。そ  
のためには、福島出身の、芸人や作家さん又  
は作家さんなど、有名な人をよこ福島市で一  
年に1回イベントをやればいいと思います。  
お金がない人たちには、配給をしてあげるな  
ど、優しい市などとしても有名になれば、み  
んなも来てくれると思いました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鎌田 菜穂 年齢 14 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、東日本大震災の時、外にいました。

ふだんの震災は外だと、あまり感じないの下

すか、大震災の時、外にいてもゆれている

のか分かりました。すごくびっくりしました。

家は、外に人はあまりこわれていませんでした。

たか、中はいろいろ物がたぐさんあちてり

たりしました。何とか片づけて寝る場所を確保

できました。少しの間は、茶の間で過ごしま

した。そして、今はリフォームした家に

ます。リフォームは、すおながらリフォーム

していただいたので、納動が大変でした。今は、自

分の部屋もあるし、犬も飼えています。復興

するまでは大変でしたが、今は、楽しく過ご

しています。震災があつて良かったと思いま

せんか、良かったことあるので、不ふつ

な気持ちです。二つから三つ、かんぱつて

たいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 守田美紀

年齢 14歳

職業・学校名 斥吹中学校

東日本大震災当時、私は小学3年生でした。大きく揺れ、棚に置いてあった荷物は、次々に床に落ち、とても怖い体験でした。外に出ると、とても空気が重たく感じました。近所同士話し合っている人たちもいれば、震びが来た建物や道を悲しそうに眺めている人たちもいました。それを見て私もとても悲しい気持ちになりました。ニュースを見ると私の町よりもっとひどい被害を受けている市、町村がたくさんありました。それを見てもっと悲しい気持ちになりました。

あれから、約5年が経ちました。道路は工事が進みだいぶ少なくなり、少しずつ復興してきています。しかし人々は東日本大震災も少しずつ忘れかけてきています。あの震災でたくさんの人が亡くなりました。生残も表私たちがこの方々の分も未来へ向かい精一杯生きていくことも、復興への1つだと私は思っています。そしてボランティア活動があるのだから積極的に参加していきたいです。